

日本の松の緑を守る!

松保護士を知っていますか?



松保護士会

松保護士会

日本の松

赤松、黒松に代表される日本の松は、古来日本列島にあって、白砂青松の松原や里山の原風景として日本人の心象風景を形づくってきました。その材は、住宅用材や松明、薪などの燃料用材、松葉は燃料、肥料などとして利用されるなど私たちの生活と密接にかかわりながら今日に至っています。松への親しみは、詩歌、絵画、能や庭園、盆栽などの伝統的文化の素材としても取り入れられてきました。



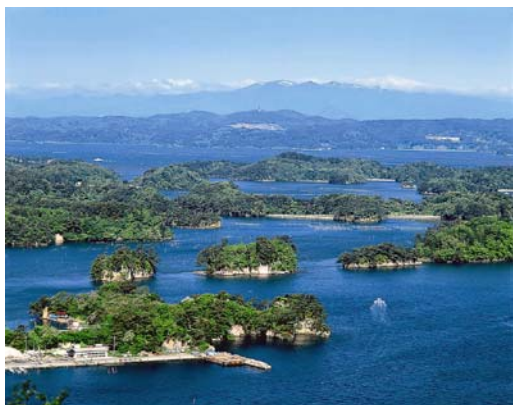
マツ材で作られた広隆寺
弥勒菩薩半跏思惟像
(松保護士の手引きより)



能舞台に描かれたマツ
(出典:大阪能楽会館ホームページ)



長谷川等伯 筆「松林図屏風」
(出典:日本国宝展 2000 年パンフレット)



松島

(出典:身近な松原散策ガイド)

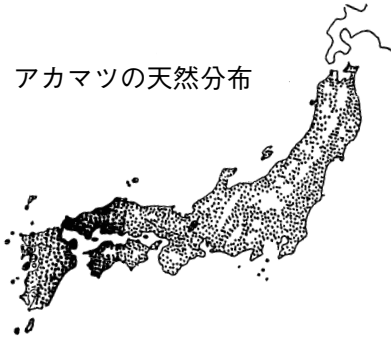


天橋立

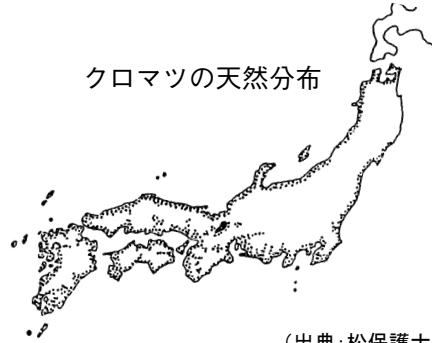
松の分布

わが国の代表的なマツは、アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツの3種です。アカマツは本州で最も多く、乾燥した痩せ地や尾根筋でも良く育つ特性があります。クロマツは、飛砂防備、防風、防潮等の防災機能などが期待される海岸林や名勝地における景観・風致林の主要な構成樹種です。リュウキュウマツは、鹿児島県の奄美大島から沖縄諸島の西表島にかけて分布し、防風林、防潮林などとして利用されています。

アカマツの天然分布



クロマツの天然分布



(出典: 松保護士の手引き)

松を守る

わが国の松は、マツ材線虫病により甚大な被害を受け続けています。防風林や防砂林、著名な景勝地の松や、かつて日本の白砂青松 100 選に選定された松原が衰退するなど、深刻な問題となっています。

日本の松を守るためには、松とともに生活している地域住民の方々のマツ材線虫病に対する認識をさらに高めていただくとともに、安全・安心な松くい虫防除事業の徹底に必要な知識・技術の一層の向上と普及を図ることが不可欠です。

松保護士

松保護士とは、マツ材線虫病について幅広い知識を持ち、被害現場に応じた防除対策を考え、実際に作業指導を行う専門家です。併せて、松の歴史や文化、松の持つ様々な役割なども伝える松のエキスパートです。

(一財)日本緑化センターは、毎年 1 回松保護士講習会を開催し、審査合格者を松保護士として登録しています。平成 25 年 4 月現在の松保護士は 419 名です。

【「松保護士」は、(一財)日本緑化センターの登録商標です】

松保護士会

かけがえのない松を保護し、松の歴史や文化を次の世代へと継承していくためには、松保護士が相互に連携を深め、情報交換や松に関する知識・技術の一層の研鑽に努めるとともに、松保護の重要性に対する多くの方々の理解と協力を得るための多方面にわたる情報発信が重要です。また、関係機関の松保護対策に協力するとともに更なる対策の推進を要請していくことも不可欠です。

このため、松保護士が互いに力をあわせて、強力、かつ、幅広い活動を展開できるよう、「松保護士会」を発足させています。平成 25 年 4 月現在の会員数は 210 名です。

【松保護士会は地域の松保護活動を応援します】

沿革

- 昭和 58 年 日本の松の緑を守る会による第 1 期松保護士の認定
平成 12 年 日本の松の緑を守る会による最後の松保護士の認定
平成 15 年 日本の松の緑を守る会の事業を日本緑化センターが継承
// 日本緑化センターによる、新たな松保護士認定制度開始
平成 16 年 新制度による第 1 期松保護士を認定
平成 18 年 松保護士会発足
平成 21 年 全国総会、交流研修会の開催

松保護士会の活動

- ①総会、交流研修会の開催、②松保護士会ニュースの発行、③会員への技術情報資料の提供、⑤後援等事業



交流研修会の開催



松苗植樹指導



林野庁訪問

松保護士会事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 9 番 13 号 三会堂ビル 2 階 (一財) 日本緑化センター内
TEL. 03 (3585) 3561 FAX. 03 (3582) 7714 Email : matsu-pp@jgpc.or.jp



【交通案内】

- 地下鉄・溜池山王駅 9 番出口 徒歩 5 分
- 地下鉄・虎ノ門駅 3 番出口 徒歩 7 分
- 地下鉄・国会議事堂前駅 3 番出口 徒歩 9 分